

令和6年度 山梨県立富士北稜高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	富士北麓地域唯一の総合学科高校として、基礎的・基本的な学力を身につけるとともに、主体的に学ぶ力や課題解決力、専門的知識・技術を身につけ、地域を支え、動かし、持続可能な未来を創る人材を育成する。
-----------	--

山梨県立富士北稜高等学校校長 野澤 俊英

本年度の重点目標	1 基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力育成のため、ICT等を活用しアウトプットを重視した`INPUT:OUTPUT=3:7`の授業を実践する。 2 地域への理解や愛着を育むため、地域を舞台とした実践的・体験的な課題解決型学習を実践する。 3 地域の産業、企業、上級学校をよく知り、将来納得のいく進路決定ができるキャリア教育を実践する。 4 生徒が目標設定、企画、運営、判断する主体的な教育活動を実践し、結果より過程に注目する。 5 全ての教育活動を通して、ルールを守り、人間として正しく生きようとする規範意識を育てる。
----------	---

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価			
本年度の重点目標			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	生徒の基礎学力の定着及び思考力・判断力・表現力育成のための授業力向上	・思考力・判断力・表現力などを育成する授業の実施 ・基礎学力定着に向けた授業の実施 ・授業改善に向けた相互授業参観 ・生徒の学習改善と教員の授業改善につながる観点別評価の実施	公開授業 研究授業 授業評価アンケート
		・学びの基礎診断の実施と結果の活用 ・スモールテストの実施(国・数) ・論述問題を導入した定期試験 ・家庭学習習慣の確立 ・朝読書の実施	学びの基礎診断結果分析 スモールテスト成績分析 学校評価アンケート 朝読書アンケート
2	地域や保護者への情報発信と生徒と地域との交流活動の促進	・「総合的な探究の時間」や総合ビジネス系列における実践と運動した連携活動の促進 ・在宅訪問や地域ボランティア活動の推進 ・学校間交流活動の推進	学校評価アンケート
		・公開授業・公開行事の促進	学校評価アンケート
		・学校ホームページの充実 ・学校便り・年次便りの発行	ホームページアクセス状況 学校評価アンケート
3	キャリア教育と進路指導の充実	・「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」の充実	学校評価アンケート
		・インターンシップの充実 ・企業・大学との連携 ・資格取得の増進	学校評価アンケート 資格取得結果
		・進路相談部と各系列・年次との連携の強化 ・個別の進路指導の強化 ・進路指導と運動した課題研究への取り組み	進路検討会 進路実績 学校評価アンケート
4	特別活動の活性化	・全員入部制(1年次生)の継続と2・3年次生への部活動継続の働きかけ	部活動調査(入部率等)
		・生徒が主体となった部及び委員会の企画運営と具体的目標・活動計画の設定	目標達成度(活動成果)
		・教員数に対応した適正な顧問の配置や地域人材を活用し業務改善を図る	目標達成度(活動成果)
5	基本的生活習慣と規範意識の確立	・挨拶運動 ・服装点検 ・清掃点検 ・学校評価アンケート	挨拶運動 服装点検 清掃点検 学校評価アンケート
		・生命や人権、社会的規範を尊重する態度の育成 ・規範意識を涵養する講演会等の開催	生徒の諸活動状況 生徒感想文等 学校評価アンケート

年度末評価(2月1日現在)		
自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
・各教科で教科会議を通して、観点別評価を踏まえて思考力、判断力、表現力育成に向けた授業改善の議論が積極的に行われた。 ・ICTを積極的に活用し、授業形態の変化や生徒の変容を窺える事ができた。 ・相互授業参観を通じて、指導法や授業形態を研究し、授業力向上へ活かすことができた。 ・学びの基礎診断の結果を系列ごとに分析し、職員研修で周知し有効活用した。 ・スモールテストは、生徒もよく取り組み基礎学力向上につながっているが、家庭学習の定着までには至らなかった。 ・家庭学習が身についていない生徒が多いが、学習記録表を活用することで少しずつ改善が見られた。 ・朝読書については、落ち着いた環境で読書をする事が生徒にとって貴重で有意義な時間となっており今後も継続したい。	B	・全職員で魅力化プロジェクトの推進し、基礎学力アップを図る。 ・ICTの活用について、従来の使い方に加えて、正解のない問いの答えを教員・生徒がともに探究していく手段として活用していけるように工夫改善する。 ・本年度、全学年で観点別評価が実施された。今までの研究成果をさらに分析し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 ・相互授業参観については、更に参観率の向上と参観内容の共有を図り、教職員の学ぶ姿勢を育て、授業力向上を目指す。 ・スモールテストの目的、効果を検証し見直しを行う。 ・学びの基礎診断の分析結果を活用し、各系列ごとの分析を活かした授業改善を検討し、家庭学習の定着を図る。 ・朝読書が更に有意義な活動となるよう、改善・工夫を図る。
・「総合的な探究の時間」は、生徒・教職員の一定の評価を得ている。教育目標実現のために、外部団体との連携授業を取り入れた地域探究・自己啓発などを実施した。さらに、キャリア教育としても効果的であった。 ・ふじざくら支援学校との学校間交流会も平常に戻り、年4回の交流を行い当初の目的を達成することができた。 ・本年度、公開授業が実施され、保護者も生徒・学校の様子を確認することができた。 ・学校便り・年次便りの発行は定期的に行われ、情報発信がなされた。 ・さくら連絡網も積極的に活用し、情報発信に努めた。 ・ホームページの利用率は生徒、保護者とも低かった。	B	・外部との連携がコロナ前のように平常通り実施され、各系列で積極的に活用されることで当初の目的をほぼ達成することができた。今後外部との連携をさらに深め、教育活動の成果を高めていく。 ・ホームページの利用率を向上させるため、魅力化プロジェクトにおいて、速やかな更新、内容の見直しを行う。学校の行事だけでなく、日常の教育活動の様子も発信するなどホームページ等を利用し、情報発信のさらなる充実を図る。 ・公開授業は参観日を増やし(最低でも年2回)、多くの保護者や地域の方々を招き、本校の教育内容への理解を深めていく。
・「産業社会と人間」は、課題の分析と改善を行っているので、生徒・教員から高評価を得ている。また、系列選択及びキャリア教育としても効果的に行われていた。 ・次年度に向け、系列選択の在り方について積極的に協議することができた。 ・全学年で「総合的な探究の時間」にエナジードコア(キャリア教育コンテンツ)を取り入れ、キャリア教育の充実を図った。 ・進路行事及びインターンシップも予定通り実施された。生徒の進路に応じた活用については、工夫をしながら一定の成果があった。また、外部機関との連携を密に行うことができた。 ・就職・進学対策について、進路指導係から具体的な改善点があげられた。(面接対策や総合型選抜対策など)	B	・「産業社会と人間」は、系列選択の重要な役割を担っている。特に前期の体験学習は、進路選択に大きく関わってくるので、計画の段階から点検改善を行い、生徒にとって系列のミスマッチが起こらないようにする。次年度向け、系列選択方法についてさらに検討を重ねる。 ・進路行事は、今年度の反省を活かし実施方法などを検討していく必要がある。また、保健相談部、担任・年次主任が互いに連携して、外部の関連機関などと引き続き連携を図り、より効果的に進路指導に取り組むようにする。 ・学校と家庭がきめ細かな連絡と連携を図り、生徒一人ひとりの進路実現を目指す取り組みを推進する。
・1年次に全員入部制度を行っているが、2年次、3年次と部活動の加入率が下がっている。 ・委員会の活動が活発でない状況である。 ・部活動の活動は活発となり、多くの部で成果をあげることができた。体育部でも、ウエイトリフティング部、陸上競技部、弓道部は上位大会に出場し、成果をあげた。また、文化局では、吹奏楽部、書道部、美術部は積極的に活動し、生徒に達成感をもたせることができた。 ・顧問の複数配置や顧問同士での連携により、働き方改革につながった。	B	・魅力化プロジェクトの推進を図り、各部のモチベーションの向上を図る。 ・教職員から1年次における全員入部制度の在り方についての検討意見が出ており、今後、現状を分析し、検討していく。 ・生徒数減少、教員の定数減の中で、部活動の活性化を維持していくために、「スポカルやまなし」等を活用して、地域人材の活用体制を構築する。 ・生徒会指導部を中心に、生徒が主体的に企画実行できる力を、学校行事や部活動委員会活動を通して育成していく。具体的には、来年度に向けて生徒主体の学園祭実現のために、半年以上をかけて検討を行っている。また、来年度は、従来の委員会を統合する形で行事実行委員を新設し、委員会活動と学校行事の活性化を図る。
・多くの生徒が、学校の規律、社会における基本的なマナーを守ることができている。しかし、一部の生徒は遅刻等、基本的生活習慣が乱れており、改善が急務である。 朝の登校指導の挨拶や服装指導等を通じて、規範意識向上のための指導が行われた。 ・生徒指導における指導方針について、教職員の共通理解を図るため、前期末の職員会議で協議し、生徒指導体制を整えた上で、生徒への周知徹底を図った。 ・規範意識を涵養したり、多様性を認めたりする講演会を開催し、生徒の生命や人権、社会的規範を尊重する態度を育成した。	B	・すべての教育活動を通じて、生徒の規範意識を育成できるよう、各年次が分掌・系列等との連携した組織づくりに取り組む。 ・昨年前期末に確認した生徒指導における指導方針について、新年度、再度、教職員の共通理解を確認した上で、年次、系列、教科と連携して、指導の効果を高めていく。 ・SNSの利用等について規範意識やマナーの向上を図り、安全・安心な学校づくりを徹底する。 ・生徒主体に校則の改定などについて、改善を図る姿勢の醸成に努める。

学校関係者評価	
実施日 (令和7年2月12日)	
評価	意見・要望等
4	・生徒アンケートにおいて「学校の授業が分かりやすいと感じている」数値が85%を超えている点からも生徒に寄り添った授業が展開されていると思う。基礎学力の定着については中学校としても申し訳なく感じている。北稜高校の取り組みについて中学校でも紹介する中で、中学校としても取り組みの強化を図っていきたい。家庭学習の定着は中学校でも課題となっている。定期テストでの取り組みを普段の学習にもつなげられるよう引き続き生徒には働きかけていきたい。 ・ICTを活用した授業により、現代社会において今後必要である観点から今後も積極的に取り組むべきだと思います。項目に該当していないが、今後テストの問題作りも先生方の負担を減らす事を目的に生成AIの活用してもよいのではないかと？自主学習については生徒により意識の違いがあるので永遠の課題ではあるが、生徒にアンケート調査を実施してみてもいいか？勉強をする意義や楽しさを一から伝える事も大事だと思います。基礎学習能力の底上げとして塾の講師に外部委託する事は新たな取り組みとして、是非とも実施していただきたいと存じます。 ・基礎学力の向上に向けて、多くの具体的な対策がとられている点に先生方の思いを感じました。 ・朝読書について、毎日のルーティーンがあること、僅かな時間を過ごすことにも生徒にとって意義があるのではないかと思います。今後も続けていただきたいと思います。
4	・保護者アンケートの結果から判断すると十分に達成できているものと思われる。 ・「かえる組」との連携などにより、様々な情報が発信されている。何よりそれに関わる生徒の多くがこの地域を支える人材になりえる。 ・総合的な探究の時間として、生徒が今後、社会人として地域課題等に興味を持ってもらう事が、未来を担う若者の役目である事の意識付けに繋がると思います。他団体との交流も違った視点での価値観や考えを共有する事で、今後生徒にいい意味での影響を与えることができると存じます。 ・外部との連携授業や学校間交流等、地域との交流活動が活発な点が良いと思います。外部との交流により、自分達を客観的に見ることができ、成長、発達の機会となるのではないかと考えます。
4	・学校そのものがキャリア教育のモデルのような学校ですので、これについては言うことはありません。卒業後の進路について、ほとんどが決定できている点からも他校にはない魅力を感じます。この点をもっとアピールすることがより良い学校づくりにつながると思います。 ・生徒が高校卒業段階において半数は就職する御校において、職業適性検査や自己診断ツールの使用をする事により、自分に適している職業は何かという問いに対する考察を深めることができ、生徒が職種を選ぶにあたり、一助にも繋がるかと存じます。今後も青年部として夏休みの職業体験に積極的に協力していきたいと存じます。 ・進路選択に関する指導及びキャリア教育の取り組みは、各アンケートで高い評価が得られています。個別の指導や課題研究等丁寧なご指導のたまものと思われます。
4	・生徒アンケートからも充実した活動が展開されていることが推測されます。部活動では私立高校がほぼ上位に入居中、資料から北稜高校のそれに割って入る活躍の様子を感じることができました。学校行事の項目は95%以上が肯定的な意見で、主体的に取り組む様子がうかがえます。一方で高校での部活の地域移行の難しさも感じました。部活で自己有用感などが持てる生徒が中学以上いることや、それによって次の進路選択をするといった面からも高校から部活がなくなるのは考えにくいです。働き方改革とは逆行してしまっていますが、 ・部活動に関して、1年次に全員入部制度を行っているが、2年次3年次と加入率が下がっている事は致し方ないと存じます。要因として生徒の考え方や家庭環境が影響しているかと存じます。加入率の底上げに繋がるかは分かりませんが、職業高校ならではの部活動やe-スポーツ同好会等を検討してみても良いと思います。先生たちの負担軽減や違った視点からの第三者からの指導の利点から、一部外部委託をする事は必要であると存じます。 ・活発な部活動、それに伴う成果について、先生方のご指導による成果と思われます。 ・生徒の主体性はとても大切かと思うので、体験をして振り返り、行動を変えていく等のプロセスを増やすといいのではないかと考えます。
4	・こちらも生徒保護者どちらの結果も、肯定的な意見が多く出されている点からも十分達成されていると思います。学校で会う生徒たちもいつも笑顔で挨拶してくれ、とてもさわやかな気分になります。 ・現代の情報社会において、SNSの普及や家庭環境により、生徒の人格形成は左右されます。時間に限りがある中で難しいと思いますが、クラス単位での道德教育の実施をし、問題に対して一人一人が考えて意見交換する事も必要ではないかと存じます。 ・規範意識の確立について、これまで実施されているように講演会など、学び考える機会が必要だと思われます。引き続きこのような学びの場の提供が必要と考えます。